

15 番 市 来 洋 志 議 員

1 全国和牛能力共進会を契機とした「和牛のふる里かのや」の畜産振興について

- (1) 第 13 回全国和牛能力共進会に向けた本市の取組状況と、鹿屋市としての具体的な目標について示されたい。
- (2) 前回大会の成果を、その後の本市畜産振興にどのように生かしてきたか示されたい。
- (3) 全共で評価された優良な遺伝資源や飼養管理技術を、市内の畜産農家全体に普及させる取組は考えているか示されたい。
- (4) 全共への出品対策を、農家所得の向上につなげるため、どのような取組を考えているのか示されたい。
- (5) 「日本一和牛のふる里かのや」というブランドを活用し、鹿屋産和牛の市外・県外への販売促進をさらに強化する考えはないか示されたい。
- (6) 全共を観光、ふるさと納税、飲食、物産等と結び付け、地域経済への波及効果を高める考えはないか示されたい。
- (7) 畜産業の担い手・後継者不足が課題となる中、全共を若い世代に畜産業の魅力を発信する機会として活用する考えはないか示されたい。
- (8) 第 13 回全国和牛能力共進会終了後も、その成果を本市の畜産振興につなげていくため、「全共後の畜産振興戦略」を策定する考えはないか示されたい。

## 2 世界につながる鹿屋市の英語教育について

- (1) 本市の小中学校における英語教育の現状と成果をどのように把握・分析・評価しているのか示されたい。
- (2) A L Tの配置状況と、A L Tを活用した英語によるコミュニケーション活動の現状について示されたい。また、A L Tの効果をどのように検証しているのか示されたい。
- (3) 児童生徒が「英語を学ぶ」だけではなく「英語を使う」機会を増やすため、授業以外での英語交流や英語体験活動をさらに充実させる考えはないか示されたい。
- (4) 英検等の英語資格取得について、児童生徒の英語学習への意欲を高めるため、受検料の助成などを含めた支援を行う考えはないか示されたい。
- (5) I C Tやオンラインを活用し、海外の学校や外国人との交流など、鹿屋市にいな  
がら英語を使って海外とつながる機会を創出する考えはないか示されたい。
- (6) 英語に親しむ機会を増やすために、小学校入学時から中学校までを見通した本市  
独自の英語教育をどのように推進されているか示されたい。
- (7) 将来的に、鹿屋市の子どもたちが英語を活用して国内外で活躍できる人材となる  
ため、本市としてどのような英語教育を目指していくのか示されたい。